

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	supportroomばある		
○保護者評価実施期間	R7年 10月 1日		～ R7年 10月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数) 16人 (実施期間後に受け取った分も含む)
○従業者評価実施期間	R7年 9月 19日		～ R7年 10月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	建物が2棟になったことで、それぞれの子の特性や相性を配慮した環境を作りやすくなっている。	成長の後押しのため、既定の予定に合わせた過ごしではなく、その時に必要とした過ごしを提供することで心理的安全性を担保している。	次年度も勉強会や研修会へ参加し、理解を深め支援力を高めていく。
2	学校やご家庭での困りごとや過ごし課題に、作業療法士の視点での働きかけが出来る。	身体面だけでなく精神的な部分へのアプローチも支援に生かしている。	専門的な視点からの方法論を職員全体で共有する。
3	職員の様々な経験を生かし、多角的な視点での支援が出来る。	現状の課題を職員間で検討し、様々な意見交換を行い、より良い支援に結び付けていく。	定期ミーティング以外で話し合う時間の捻出をどのようにしていくか検討する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援も行っているため、全体での勉強会や研修の時間の確保が課題。	児童発達支援も行う多機能型のため。	前もって分かっている利用児の方のお休みに空く時間や、研修のために13時までの営業としている日を充てる。
2	学区が広範囲に亘るため送迎に難しさがある。送迎時間が長くなったり、送迎時間が重なってしまうと事業所内が手薄になる時がある。	学区が広範囲に亘るため。	車内での時間が安全であるよう工夫をする。
3	情報発信について。	ホームページを活用出来ていない。	情報発信のツールとしてホームページを整備していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		supportroomぱある		公表日		R7年 2月 14日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	二棟あることで適性に応じたスペースになっている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8	1	日々の支援では子供の状態や人数に応じて職員の配置をしており、必要があれば都度変えている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	バリアフリー化されていない場所では職員による目配り・気配りを行い、安全に配慮している。こどもの特性に合わせた配慮を行っている。	建物の構造上バリアフリー化を促進することが困難な状態であるため、職員による目配り等の工夫を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	毎日支援前・支援後に職員全員で環境整備を行っている。部屋数があるため、こどもたちの活動に合わせた環境設定になっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		必要な際に個別の部屋を使用出来る。		
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	3	業務改善のための検討チームを発足させ、全体的な職員間の話し合いを行っている。	通常のミーティングや職員研修日の中で、PDCA サイクルのための時間と流れをどう作るかが課題。	

業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	保護者様からの評価を受け、職員全員で共有検討して改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		日々のミーティングを通し意見を伝え、改善に繋げている。	限られた時間の中で改善機会をつくるのは容易ではない。コンパクトに進める方法を検討していかなくてはならない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1	第三者の方に評価をお願いしている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	研修の情報は掲示され希望者は受講している。	スキル・資質向上は長期的課題であり、研修機会を確保していく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	4	支援プログラムは今年度中にまとめて公表を予定している。	公表の方法についてはHPにて行う
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	1	モニタリングで得た情報を職員でも共有し、現在の課題を検討し計画を立てている。	アセスメントや面談の手技向上は必要であり、よりよい計画書作成につなげたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	職員間で共有し児童発達支援管理責任者へ情報を伝え、児童発達支援管理責任者も確認し、共通理解のもと検討している。また、新たな課題が出るたびに検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	2	共有されたことを元に、毎日のミーティングにてこどもの状態を話し合い、支援にあたっている。	計画に沿った支援が行われているか日常的に振り返れるような工夫をする。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2		全員分の情報はそろっていないので、そのためにもどのような形式にするかを検討中。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	新しいガイドラインに則った5領域を踏まえた、それぞれの子に必要な内容を設定している。	重複する部分や、表記の仕方に課題がある。また、家族支援や地域支援については包括的にとらえるうえでも具体的に記載することが難しい。事業所連携を取りながら盛り込んでいきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	2		長期休みでは、子どもたちの楽しみとなるプログラムの他にも安全・健康に関するプログラムも検討していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	4	それぞれの興味関心、将来を見据えて設定する	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	1	状況に合わせて作成した計画を、学校からの情報と家庭からの情報も勘案しつつ、本人のその日の状態を把握し支援する。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		通常は定時に行っているが、長期休みには一堂に会することが出来ないため、全員が確認できるツールを用いて連携をとっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	4	当日中に記録を残し職員間で共有出来るようにし、急いで共有が必要な件には職員がその場で話し合いを行う。	勤務体制上当日共有は限られており、翌営業日のミーティング内にて共有・検討を行い、都度の支援に活かす。時間があれば当事者同士検証や振り返る時間を立ち話レベルで行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		日々の子どもの様子を記録し支援に繋げている。	日々の支援記録出来ているが、記録方法や内容については検証の余地あり。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		記録を振り返り、支援に当たっている職員と検討し、保護者の方よりいただいた情報や要望を反映している。	

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7	2	子どもたちのそれぞれの状態に合わせて組み合わせている。	基本的に重複して組み合わせる。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		意思決定支援をベースに考えている。自己選択の力を育てるよう設定している。	意思決定支援の考え方を学べるよう研修の機会を設けて、職員が学んでいけるよう考える。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		基本的には児童発達支援管理責任者が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	地域との関係機関との連携は、利用児さんの関係機関との連携のみとなっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		学校情報は基本はご家庭からいただいている。また、学校との調整は適宜行っている。	下校時間重なることや、移動時間で学校側に協力いただくことも必要であり実施している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	1	児発・訪問を利用されていた方が多いが、就学からのご利用の方の場合は園へ見学に行かせてもらうなどの方法を取っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	対象児がいた場合に行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	5	センターとは連携をはかっていないが、助言を受ける先は別途設けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	8	行っていない。要望があれば検討していく。交流を希望しないご要望もある。	必要性は高くないと受け止めている。

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	6	3	している。	会議に参加した職員からの情報の共有の仕方を検討する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		日々の様子を送迎を通して伝え合っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	8		今後、情報提供や研修の機会については検討する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	2	利用開始時に行っている。	利用開始時の説明内容について職員全体に共有していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		モニタリングでお話をお聞きし、また普段のお話やご相談をお受けしたことをもとに計画を作成している。	ご本人の利益と保護者さまのご意向に差がある時のバランスは課題としてある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		原案をもとに現状やご希望をお聞きし作成した計画書を確認していただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	1	直接や電話以外にも、ラインやメールといった手段も用意している。	事業所からの何気ない会話からの発信も大事かと考える。普段から相談しやすい関係づくりを行っていく必要がある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	3	9月に利用児の方、ご兄弟、ご家族向けの交流会を開催した。	大人だけの会を開催し保護者同士や対職員とじっくり話す機会を設けることも検討議題にあがっている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	1		ご意向は、直接または連絡帳や電話などでうかがっているが、今後別な形での対応についても要検討。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	8	定期的な通信は発行していない。予定などは都度発信している。	情報発信のツールとして、ホームページを整備していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		会議等の事由がある場合を除き、外への持ち出しを禁じている。また、PC管理やサイバーセキュリティ等も徹底的に管理している。事務所への来客の場合は、ホワイトボードはスクリーンで目隠しし、書類も目に触れないようにしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		子どもさんに合わせた配慮を行い、また保護者の方へはご家庭の状況や要望に合わせた伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	7	現在は行っていない。	中長期的な課題の一つとして検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	3	職員間の共有は行っているが、ご家庭への周知が出来ていない。規定の訓練は行っている。	ご家庭へマニュアルの存在(概要)は書面にてお伝え済み。内部の情報については慎重に検討して共有の可否と方法を検討する。
非常時等の	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	2	作成した業務継続計画は職員がいつも見れるところに保管しており、研修等を行い訓練も行っている。	年度途中なので全てを終えていないが、年度内には終了。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	1	契約時に、またモニタリング時にお聞きし、服薬は都度服薬依頼書に記入いただいたものに対応している。個人台帳のわかりやすいところ(背表紙)に可視化している。	現在は情報をいただいている形式がご家庭により異なるため、今後の形態を検討中。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	5	ご家庭の指示に基づいて対応している。	医師の指示書等の控えをいただくなど、形式を検討中。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	5	作成した安全計画は職員がいつも見れるところに保管しており、研修等を行い必要な措置も取っている。	年度途中なので全てを終えていないが、年度内には終了。

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	6	避難訓練を実施時にプリントを配布している。また、子供たちと一緒に学んだこと等を合わせて配布している。	こまやかに連携を取っていくための統一した方法を検討しており、ご家族との共有方法についても併せて検討中。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		事案が起こった際は報告書を作成・回覧し、ミーティングにて共有及び検討している。	事案とその解釈、対策を共通認識を持って検討時間を確保する。今後は事業所間でのヒヤリハット検討等も有効かと考えている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		虐待防止委員会のもと、研修を行っている。その他、関連の通知などあれば回覧している。県主催の研修への参加と伝達講習を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	1	身体拘束が必要な事案の際には、身体拘束等適正化委員会で検討会を開催し、保護者さまと相談し行政にも諮ったのちに再度検討会を開催し、個別支援計画書に新たに記載する。	